

# 知床国立公園 ルサ園地の再整備について

北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所







知床橋から見たルサ園地全体  
左手建物がルサFH。手前河川がルサ川。  
ルサ園地は写真中央部の広場空間



園地から見たルサ川(右岸側から撮影)  
ルサ園地奥部から見たルサ川の上流方向  
奥手の山がルサ乗越し

- 平成20年度  
ルサフィールドハウス新築
- 令和5年度  
令和5年度第1回河川工作物AP会議において、園地整備箇所の  
現地視察・検討を実施
- 令和6年度  
ルサフィールドハウス前の駐車場の拡幅工事を実施
- 令和7年度  
ルサ園地整備のため設計業務を実施中
- 令和8年度以降  
ルサ園地整備を計画



左図は、令和5年度第1回河川工作物AP（現地検討）の際に提出した資料の再掲資料。

知床先端部地区の適正利用に向けた情報提供拠点とするとともに、環境教育活動の推進のための利用拠点として園地及びFHの整備・活用を計画。

左図のうち、進捗及び変更箇所（河川関係）は次のとおり。

- ・園地南部における「駐車場敷地の拡充」（黄色着色範囲）は令和6年度に完了。
- ・園地南東部の「親水空間の整備」（青色着色範囲）は事業の取りやめ。

サケマス遡上をはじめとするルサ川の自然を観察するため、令和4年度の設計では園地からルサ川へのアクセス路を計画。アクセス路は右岸側法面を階段で降りて川岸まで至るルートを用意していたが、サケの遡上・産卵時期に川岸まで利用者を誘導することがサケの産卵行動へ悪影響を及ぼす可能性があることから、アクセス路の整備を取りやめ。サケマスの観察は園地上から実施する方針へと変更した。



【参考】当初計画図



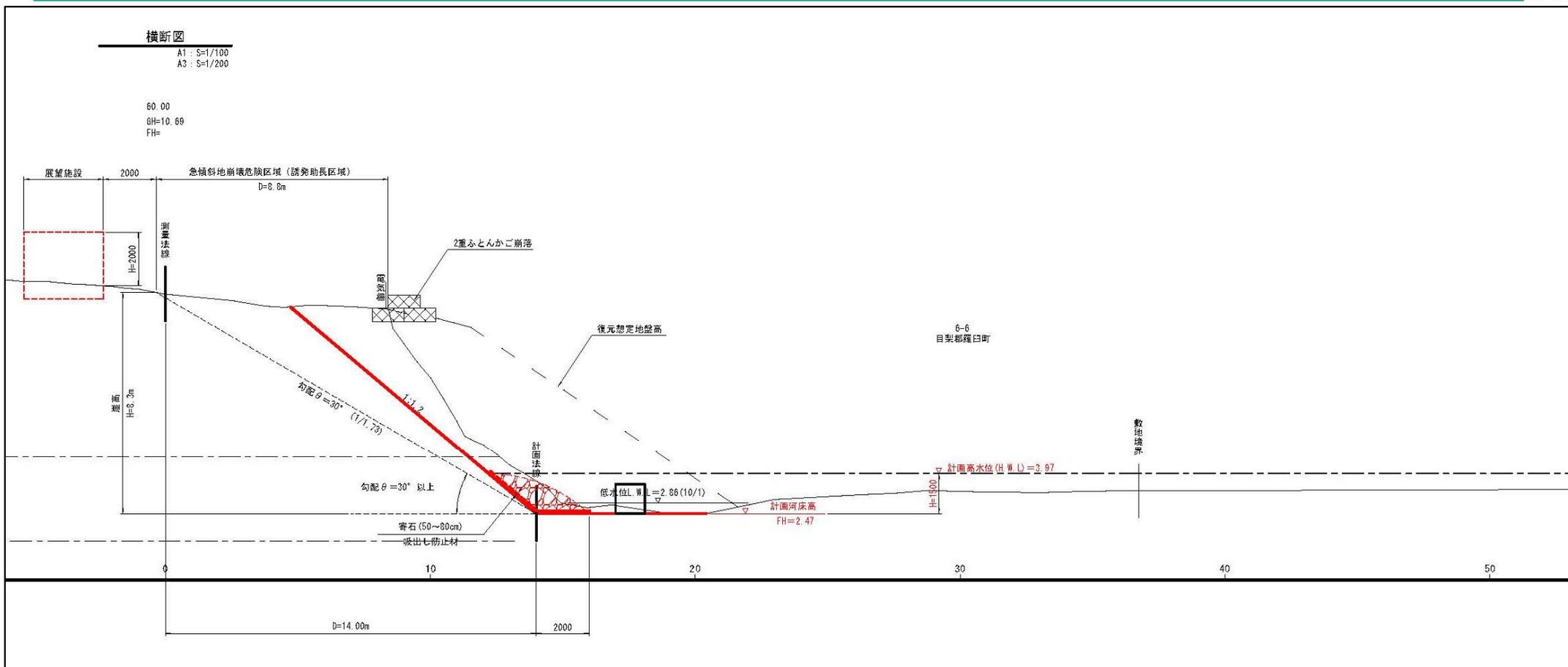
【参考】当初計画の親水空間予定箇所  
ルサ川河口付近から知床橋方面(下流側)を撮影  
右手が右岸側(ルサ園地側)

園地北部ではルサ川沿いに5.0m～7.0mの法面が形成されている。当該法面は勾配が急であり、雨水等による浸食が生じ、法面が崩れている。また、令和7年9月21日に発生した大雨でも法面の崩れが進行していることを確認。

法面崩落を防ぐため、傾斜を安定勾配にするための切土工事を予定。



- ① 法面の状況(R7.5時点):左上写真  
雨水等により法面の浸食
- ② 法面の状況(R7.9時点):写真右上  
R7.9の大雨により浸食が拡大
- ③ 法面周辺のドローン写真:写真左下  
河川の蛇行状況と当該箇所の様子



【参考図】法面の安定勾配の検討

上記図は、法面の安定勾配を検討した横断面図。  
現状法面を1:1.2の勾配に変更するための切土を想定。  
また、令和7年9月の大雨により浸食が進んだため、計画  
高水位高さ(計画河床高さ)から1.5m程度まで寄石また  
は護岸(参考写真参照)等を検討中。



【参考写真】自然公園内での護岸(上高地)